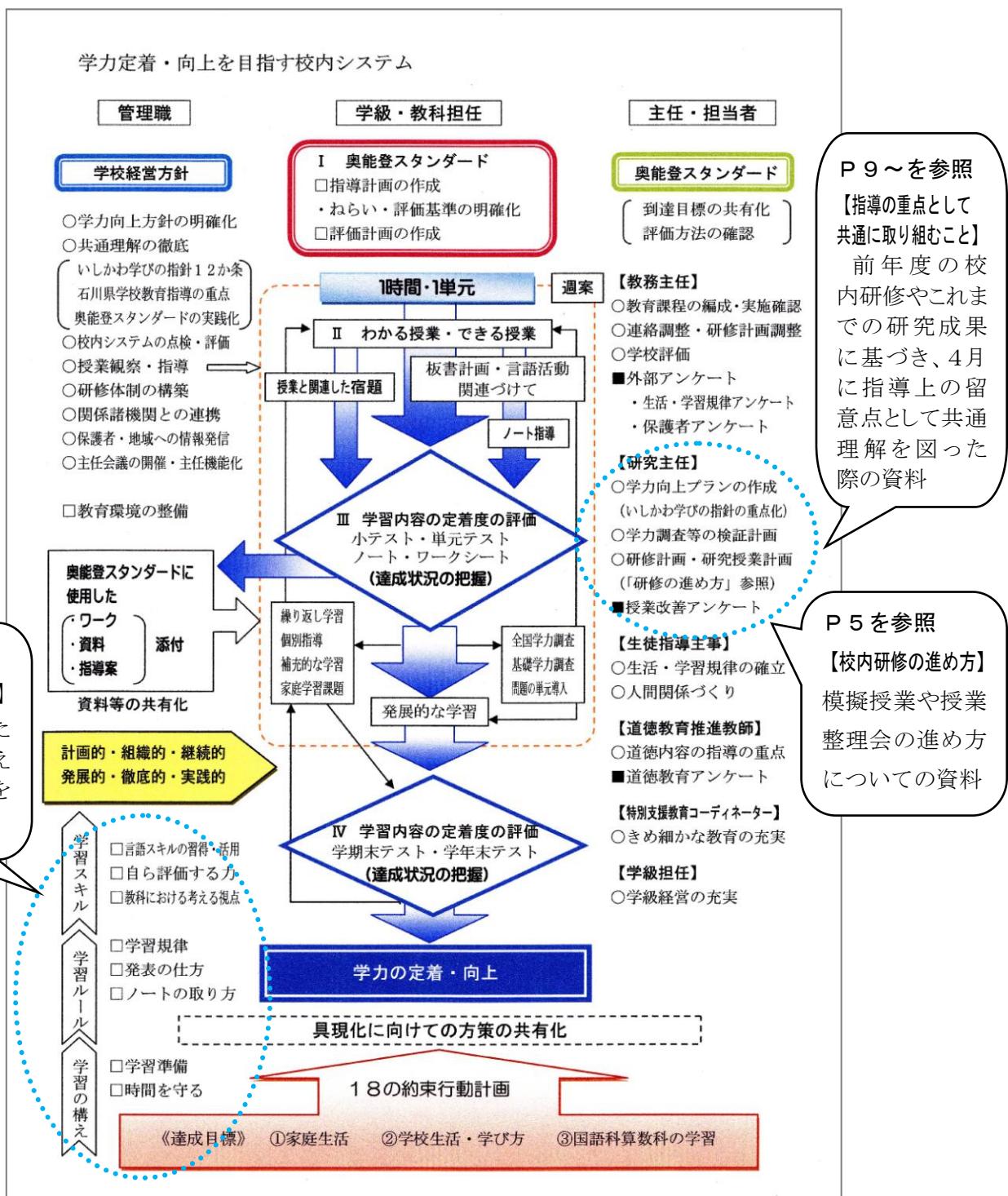


学力定着・向上を目指す校内システムは？

指導改善を進める体制づくり

本校の校内システムは、下記のような体制をとっている。これらのシステムに基づいて、具体的な実践に移すために、具体化・具現化・可視化を図っている。具体化・具現化・可視化することで、教職員の共通理解と目的や方法が共有化され、学びの連続性や組織的な授業改善につながるものと考えている。（具体化した一部は、下記の吹き出しのページに載せてあります。）



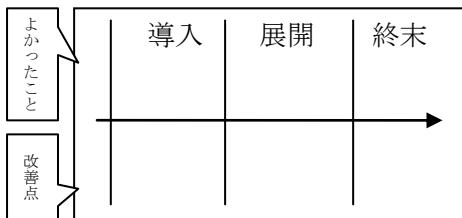
では、校内研修はどうなっているの？

指導改善を進める体制づくり

毎週水曜日を校内研修の日とし、研究主任による年間計画に基づいて研修を積み重ねている。

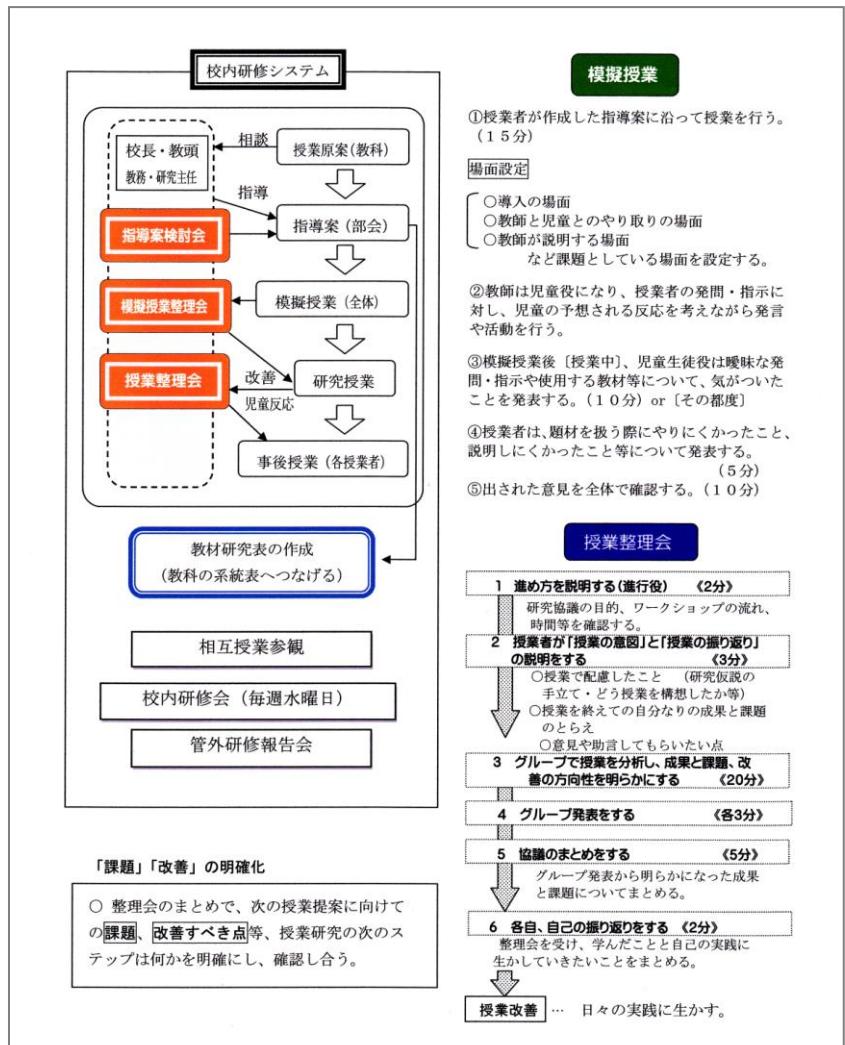
研究授業は、模擬授業をはじめワークショップ型の授業整理会を実施し、視点を明確しながら課題や改善すべき点を明らかにして、日々の授業改善に生かしている。

[ワークシートの一例]



赤の付箋 … 児童について

青の付箋 … 教師について



《本校の研究授業の流れ》

計画的・組織的・継続的・発展的・徹底的・実践的を意識し今後の授業へ生かす取組み

指導案検討会



模擬授業



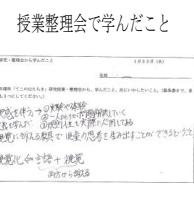
研究授業



授業整理会



授業改善



模擬授業を実施し、授業構成や発問、板書内容等について、検討を行う。

ビデオ撮影・板書の写真教師の発問、児童の考えを記録する。

KJ法を取り入れ、協議の視点を明確にして授業改善点を明らかにする。

協議後、全員が授業整理会で学んだことと題し、用紙に記入し記録を保存。この記録は授業構成を考える際の財産となっている。

P 9 【活用する力の育成を意図した本時の展開】を参照

昨年度（平成23年度）、KJ法による授業整理会で改善点や授業構成のキーワードとして出された意見を今年度の学習指導に生かしています。（継続的・発展的）

学習規律や学びへの姿勢は？

学習の構えをはじめ、話の聞き方、発表や話し合いの仕方、問題解決に向かう姿勢など学習を支えるための身につけさせたい力を明らかにしている。本校として大切にしていきたい学びへの姿勢を教師自身が下記の表で自己評価しながら、学びを支える力として身につけさせていきたいと考えている。

学力・学習を支える基盤づくり

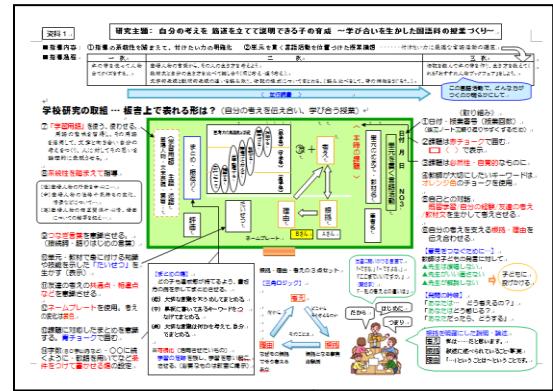
H24年度 飯田小学校の学習を支える付けたい力				
	I	II	III	IV
学習の心構え	忘れ物がない	机の上に、次の授業の準備が出来ている	ペルを手作りし、サイン用用紙に捺印が始められる	学年ホールが活用している
問題解決の姿勢・仕方	放課後や先生の援助を受けて、解決しようとする	自分で調べながら、自分よりうどく（英語学習）（内山・向井）	複数の考案を見つけるようする	問題解決・論理的思考・教訓と関連付けして、練習しようとしている
発表の仕方	しっかりと準備をする	大きな声で話をする（内山・向井）	大きな声ではっきりと発する	発表する（内山・向井）
聞き方	聞きき難いものと聞ききやすいものと聞きき分ける（内山・向井）	事柄を大きくつなぎながら使っていく（内山・向井）	教科用語（直筆）を使って、考え方を表現する	複数の考案の中から、何がいいですか？（内山・向井）
学び合い話し合い	相手の意見を聞くことよりも自分の意見を述べることよりも（内山・向井）	相手の意見と並んでつなげていく（内山・向井）	相手の意見と並んでつなげていく（内山・向井）	主体的に学び合い、よりよいものを作り出していく
学習のまとめノートの取り方	相手の意見を聞くことよりも自分の意見を述べることよりも（内山・向井）	複数の考案の中から、自分が考案した意見を提出していく（内山・向井）	自分の意見が採用されている（内山・向井）	相手の意見によって、自分が変容したり、変わらせてもらっている
書く	相手の意見を聞くことよりも自分の意見を述べることよりも（内山・向井）	複数解決の方法をノートまとめていく（内山・向井）	自分がいつにかけてそれがどの解決方法や考え方を理解したか（内山・向井）	学び合いでの会話からかわいがれ解決方法や考え方を理解したり、喜んだりすることができる
体育での集団行動	場合は、駆けっこで走ることができる	事柄の経緯に沿って文書が作られる（内山・向井）	相手の意見と並んでつなげていく（内山・向井）	条件に応じた記述や説明ができる（内山・向井）

添付資料1を参照

これまでの研究成果を生かす

本校では、これまで長年にわたり文科省や石川県教育委員会、珠洲市教育委員会の研究指定を受け、様々な実践を重ねてきている。

「いしかわ学びの指針12か条」に関わる実践も数多く蓄積されており、これらの実践を継続、発展させていくことにより、子ども達の学びの連続性を図り学力の定着につながると考えている。これまでの実践内容をワンペーパーにまとめ、学習指導に生かしている。



添付資料2を参照

保護者とともに取り組む教育行動計画

4月の学級懇談会で、家庭での子ども達の様子や学級の様子について意見交換を行い、学級の子ども達に不足している体験や子ども達に身につけさせたい力等について、保護者と担任が話し合い、1年かけて育んでいきたい目標を決め、学期ごとに検証しながら保護者と共に取り組んでいる教育行動計画がある。「家庭生活」「学び方」「学力向上」の3点について、「明日を担う子どもたちのための18の約束」として、取り組んでいる。



添付資料3を参照

基礎的・基本的な学力定着のために

学力・学習を支える基盤づくり

1 スキルタイムの取組（13:50～14:00）

前学年までに学習した基礎的・基本的な学力（「書く力」「語彙力」「計算力」等）の向上を図る。

曜日	月	火	水	木	金
内容	視写タイム	言葉タイム	計算タイム	学級タイム	漢字タイム
ね ら い	早く視写する力の伸長	文法や語彙の使い方等の力の伸長	基礎的な計算力（速さ・正確さ）の伸長	学級の実態に応じ不足している基礎的・基本的な学力の伸長	漢字を書く・読む力の伸長
主 な 取 組 例	教材「うつしまるくん」を使用して力を伸ばす。	①教材「ことばのきまり」を使用して力を伸ばす。 ②辞書のひきかたの指導、練習 ③ローマ字の学習	前学年までの復習 ①過去のスキルタイム プリントの利用 「〇問テスト」 ②「すず漢字コンテスト」の過去問題	該当学年等の学習 ①都道府県名を覚える（県庁所在地も） ②石川県の市町を覚える ③詩の暗唱	①漢字の学習・練習 ②誤字が目立つ漢字の指導 ③すず漢字コンテストの過去問題

*11月は、すず漢字博士コンテスト、12月は、すず漢字博士コンテストの練習問題に取り組み月間とする。

2 「活用力タイム」の取組（13:50～14:10）

毎月23日（石川読書の日）を含む週のスキルタイムを20分間にし、活用力を重視した学習を行う。

				23日	
4 6	国語 「活用力アップワーク」	国語 「活用力アップワーク」	算数 「活用力アップワーク」	学校読書の日 *ボランティアの方々 教師による読み聞かせ *感想文を書く *班長や学年代表 による図書紹介	算数 「活用力アップワーク」
1 3	国語 「こくごのがくしゅう」 「国語ドリル」	国語 「こくごのがくしゅう」 「国語ドリル」	算数 「さんすうの力」		算数 「さんすうの力」

* 上記の取組を基本とするが、児童の実態に応じて学習内容を工夫する。

(例) 筋道をたてた文の書き方の学習 事実（根拠）と理由（判断）、考え（意見）を踏まえた話し方の学習

<実施上の留意事項>

- ・採点も、時間内で終わるよう、学習量や時間を工夫する。
- ・授業中の児童の書く様子や、すず計算博士・漢字博士コンテストの結果及び過程（伸び）で検証する。

3 家庭学習の取組

- ・児童と家庭向けに「**学習のてびき**」を発行し、児童に家庭学習をするときの留意点、「自学」への取組方等を指導する。
- ・保護者に対して、学習習慣の意義を啓発し、支援してもらう。 (資料4 参照)

4 生活習慣の取組

- ・よりよい生活習慣の確立、食育の観点から、「早ね、早起き、朝ごはん」の取組を継続する。
- ・「バランスアップカード」で児童の実態を把握し、実態に応じた保健指導・食育指導を行う。
- ・「早ね、早起き」（睡眠時間の確保）に重点を置いた指導をする。
- ・教育行動計画書「家庭生活」の取組を通して、生活習慣の改善を図る。 (資料3 参照)

5 読書への取組

- (1) 朝読書 月～金（8:10～8:20）・・集会等がない日に実施
- (2) 学校読書の日（毎月23日）の取組（活用力タイム23日欄参照）

6 補充学習の取組

原則、毎週火曜の放課後、補充学習を実施する。学習内容は、学級担任が決める。
級外も、児童数が多いクラスを中心に支援に入る。

7 学びの姿勢づくり（学習ルールの確立）

- ①チャイムで、座席につくように指導を継続する。
- ②ノートなどに、書く機会を確保する。（板書を写す・考えや気づきを書く）

8. 学校環境・学習環境の工夫・・・指導に役立つもの

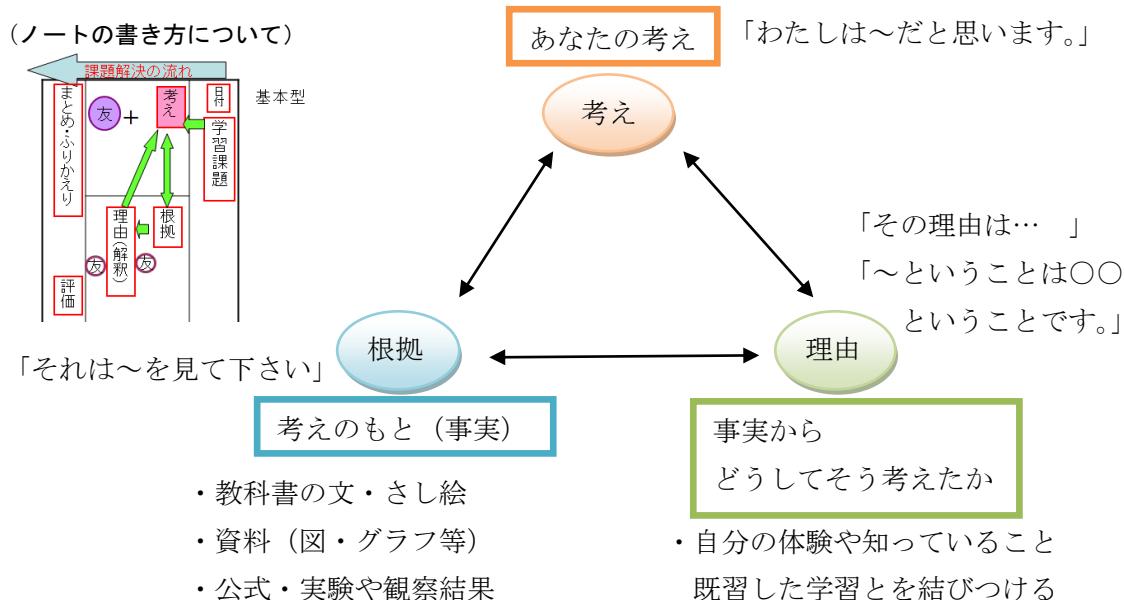
今年度の指導の重点は？

活用力を高める授業づくり

「自分の考えを 筋道立てて説明できる子の育成」…〔授業で共通にして取り組むこと〕

ア 三角ロジックを意識する

- ・教室に三角ロジック〔三角形で伝えよう〕を掲示する。(前面)
話し方を指導する。



イ 付けたい力をつけるために

どのようなまとめをするかをまず考えて、課題を考える。(教科書のリード文や大切を参考に)

ウ 学習用語を使う(教室に掲示するなど工夫を)

〔物語文の読み取りに必要な用語〕

「登場人物」「中心人物」「対人物」「山場(クライマックス)」「出来事・事件」「時」「場所」「語り手」「あらすじ」「題名」「作者」「かぎ」「訳者」「感想」「たとえ」「場面」「地の文」「主語」「述語」「会話文」「事実」「意見」「感想」「人物像」「朗読」「情景」「心情」「視点」

〔説明的文章の読み取りに必要な用語〕

「題名」「形式段落」「意味段落」「要点」「問い合わせ」「文章構成図」「事例(具体・抽象)」「要旨」「要約」「キーワード」「中心文」「主語」「述語」「事実」「意見」「感想」「意図」「対話」「置き換え」

〔詩の読み取りに必要な用語〕

「題名」「リズム」「中心語」「中心文」「語り手」「技法と効果」「連」

〔書く時に必要な用語〕

「主語」「述語」「句読点」「推敲」「構想」「取材」「構成」「記述」「事実と意見・感想」「記録」「引用」「具体例」「わり付け」「文章の終わりは です ます に」「見出し」

〔使用したい言葉〕

「まず」「つぎに」「さいごに」「つまり」「このように」「私は(ぼくは)」「たとえば」「だから」「なぜなら」「それに対して」「一方」「しかし」「だが」「でも」「けれども」「要するに」